

JR東海労ニュース

一方的な休日出勤反対！

闘争シリーズ No. 7

No. 755 2005年11月24日

JR東海労働組合

ユニオンよ、「休日出勤解消に責任を持つ」と言うなら、
いつ解消なのか、展望を示せ！

ユニオンが相次いで、組織情報 410(11/16)、411(11/21)を出した。「海労！破滅への疾走」シリーズものだ。これだけ頻繁に出ていることをみると、会社は窮地に追い込まれていることに違いない。何としてもユニオンが東海労のストを破壊するんだという意気込みだけは伝わってくる。だが、この行為が一方的な休日出勤解消の足を引っ張るところか、ますます休日出勤を増やし、要員削減につながることは明白である。良識あるユニオン組合員はお見通した。

そもそもストは、憲法で保障された労働者の権利である。私たちは、会社に一方的に強制されず、自分の休日を休むことを目的に、スト権を確立した。ユニオンは、「(ストの目的は)JR東海ユニオンとの安定的な労使関係の破壊を目論んでいる」などと、まるでチンプンカンプンのことを主張している。自分の休日だから、「会社倒産運動」と打ち出せないのが歯がゆいだろう。

ユニオンは、「休日勤務解消に向けた取り組みは、わがJR東海ユニオンが労使協議を通じて責任を持って担っていく」と威勢良くぶち上げた。労使協議で解決できる問題だとしたら、ユニオンは今まで何をしてきたのか、全てを明らかにすべきだ。取り組みらしい取り組みをしてこなかったからこそ、ユニオンは東海労のスト権一票投票や戦術、さらには情報郵送までもケチをつけるしかないのである。ユニオン幹部よ、ケチつけの前に、一方的な休日出勤解消はいつになるのか展望を示したらどうか！ユニオン組合員のみなさん、幹部に一方的な休日出勤はいつまでなのか、どしどし聞いてみよう！

ユニオン、血相かえてスト批判の連続！
労働三権のスト権を否定する資格はない！

ユニオン組合員のみなさん、このままでは一方的な休日出勤は拡大します。
東海労の旗の下に結集し、共にたたかきましょう！

